

職員団体との交渉の議事要旨

(開催日時)

令和5年8月2日(水) 15時02分～15時59分(57分間)

(開催場所)

室蘭開発建設部1階大会議室

(出席者)

当局側(室蘭開発建設部)

佐々木 純(室蘭開発建設部長)、土田 毅(室蘭開発建設部次長)、
千葉 欽也(総務課長補佐)

職員団体側(全北海道開発局労働組合室蘭支部)

島 一雄(執行委員長)、瀧口 浩敏(副執行委員長)、猪狩 光恵(書記長)、
松坂 昇(執行委員)、笹渕 道子(執行委員)

(議題)

- 1 超過勤務の縮減について
- 2 職員の健康安全管理について
- 3 ハラスメントが行われない職場環境の整備について
- 4 妊娠・出産・育児に関わる休暇等を取得しやすい職場環境の整備について

(要求書に対する回答)

要求書のうち、取り決めた交渉議題について回答(別紙のとおり)

(発言概要)

【議題1：超過勤務の縮減について】

(職員団体) 当部における超過勤務の実態と要因を聞きたい。

(当局) 令和4年度の平均超過勤務時間は前年度から1時間ほど増加しているが、新型コロナウイルスの基本的な感染対策を行いながらも、通常の勤務に戻りつつあるという状況で、超勤が微増したと考える。

また、今年度の第1四半期は昨年度から1時間ほど減少しているが、コロナ禍の経験により、職員の働き方に対する意識が高まってきていることもあり、減少傾向にあると思われる。

【議題2：職員の健康安全管理について】

(職員団体) 若年層が辞職する原因は心の問題だけではないかもしれないが、コミュニケーションの不足により、職場に馴染めない人もいるのではないかと。

(当局) これまでは、コロナ禍により対面でのコミュニケーションが取れないこともあったと思うが、新規採用職員が部長と話をする場を設けるなど、コミュニケーションを取れるような環境づくりに取り組んでいるところである。

【議題3：ハラスメントが行われない職場環境の整備について】

(職員団体) ハラスメントを把握する方法について、管理職に聞いても自らハラスメントしていると言うはずはなく、当局として実態を把握する方法を検討しているか。

(当局) 当部にはハラスメント苦情相談員を男女3名ずつの計6名配置しているが、相談窓口に限らず、直接、幹部に相談ができるような職場環境をつくっていきけるよう、職員とのコミュニケーションを図っているところである。

【議題4：妊娠・出産・育児に関わる休暇等を取得しやすい職場環境の整備について】

(職員団体) 業務が繁忙で育児休業をしたくても長期では休みにくく、短期では代替がないので仕事が心配で休めない。できるだけ休みやすくなるような職場のサポートなど、所属長をどのように指導しているのか。

(当局) 制度の利用が可能な対象者を早期に把握し、両立支援制度の説明や業務分担の見直しなどを行うことで、育児休業等を取得しやすい環境づくりに努めるよう、管理者を引き続き指導していきたい。

※文責は室蘭開発建設部当局（今後修正があり得る）